

2014年9月政情（内政・外交）

1. 内政

（1）CD 党議員への異議申立てに関する審議

9日、選挙裁判所にて、5月4日の国会議員選挙において当選するも、その後異議申立てが提出された事で当選が確定していなかったCD党カルロス・ティト・アフー議員に対する審議が行われた。同審議は7時間以上に及び、「ア」議員が5月選挙に際し500万ドル近い選挙資金を賄賂として使用した事が明らかにされたが、当人は無実を主張した。

（2）PRD 党執行部役員選挙

21日、7月のナバーロ前書記長以下5名の辞任により空席となっていたポストを埋めるべく、PRD党執行部の役員選挙が行われた。本選挙においては、書記長としてカルロス・ペレス・エレラ氏、第一副党首としてカミロ・アジェイネ氏、第一副書記長としてアリ・ウェイクト氏、第三副書記長としてフランシスコ・ビヒル氏、第五副書記長としてハビエル・スクレ氏が選出された。

（3）PRD 党議員3名への信任状授与

23日、選挙裁判所は、5月4日の選挙以降当選の確定していなかったPRD党の議員3名に対する信任状の授与を行った。これにより現国会における確定議席数は全71議席中60議席となり、このうちPRD党が25議席、CD党が20議席、パナメニスタ党が12議席、民衆党・モリレナ党・無所属がそれぞれ1議席ずつを有するという結果になった。残り11議席に関しては選挙裁判所の審議を待つて決定される見込み。

2. 外交

（1）サイン・マロ副大統領兼外務大臣とケリー米国務長官の会談

2日、「サ」外務大臣は米国ワシントンにてケリー同国務長官と会談を行った。本会談においては来年4月に開催予定の米州首脳会議につき話し合いが行われ、「サ」外務大臣は同会議が民主主義、人権、開発、移民問題、エネルギー等様々なテーマに関する話し合いの場となる事を期待している旨述べた。

（2）バレーラ大統領と法王フランシスコの会談

5日、「バ」大統領はバチカンを訪問し、法王フランシスコと会談を行った。本会談の中では来年の米州首脳会議で議論の必要があるとされる宗教的な議題について話し合いが行われた。また「バ」大統領は法王に対してパナマへの招待を行い、法王はこれを好意的に受け止めた。

（3）バレーラ大統領とフェリペ国王及びラホイ首相の会談

8日、「バ」大統領はスペイン・マドリードを訪問し、フェリペ国王及びラホイ首相と会談を行った。「バ」大統領はサルスエラ宮にて「フ」国王と会談を行ったのち、国王主催の午餐会に参加した。その後、「バ」大統領は「ラ」首相と会談を行い、両国間の通商関係の

強化、とりわけパナマにおけるスペイン企業による投資について話し合いがなされた。また「バ」大統領はパストール公共事業大臣とも会談を行い、ゴミ処理問題、公共交通網の整備、歴史・文化遺産の修復と保存といったテーマにつき意見を交わした。

(4) サイン・マロ副大統領兼外務大臣とミード・メキシコ外務大臣の会談

9日、「サ」外務大臣は当国を訪問したミード・メキシコ外務大臣と会談を行った。本会談では「サ」外務大臣より「ミ」外務大臣に対して、来年のOAS事務総長選挙におけるステイン元グアテマラ副大統領への支持が呼びかけられた。また「ミ」大臣は、メキシコは米州首脳会議のホスト国であるパナマが同会議にキューバを招待することを全面的に支持する旨言明した。

(5) サイン・マロ副大統領兼外務大臣のキューバ訪問

18日、「サ」外務大臣はキューバを訪問し、カストロ同国首相及びロドリゲス同国外務大臣とそれぞれ会談を行った。右会談においては二国間協力の強化につき話し合いが行われた他、「サ」外務大臣よりキューバに対する第7回米州首脳会議への招待がなされ、同国側より好意的な反応があった。

(6) バレーラ大統領の第69回国連総会出席

ア. 22日、「バ」大統領は先住民に関する世界会議に出席し、先住民の権利の尊重と生活向上に関するパナマ政府の姿勢を表明した。

イ. 22日、「バ」大統領はバチェレ・チリ大統領と会談を行い、バチェレ大統領より来年の米州首脳会議へのチリの参加が表明された。

ウ. 23日、「バ」大統領は気候サミットに出席し、気候変動に関するパナマの取り組みにつき説明を行った。

エ. 23日、「バ」大統領は潘基文国連事務総長と会談を行い、国連ラテンアメリカ・カリブ支部をパナマに設置することが確認された。

オ. 24日、「バ」大統領は安倍総理大臣と会談を行い、メトロ3号線のファイナンス及び建設を具体化するための今後の方向性につき話し合いを行った。本件に関する日本政府との交渉責任者としてデ・ラ・グアルディア経済財務大臣が任命され、近々同大臣が東京へ派遣される予定。

カ. 25日、「バ」大統領は一般討論演説を行った。「バ」大統領は、各国の問題解決のため、パナマは対話を促進する仲介国となることを強調するとともに、明年パナマにおいて開催される米州首脳会議が地域統合や国際平和を促進するものとなる事を期待している旨述べた。